

事業番号	15 06 02	事業改善シート（令和 6 年度実施事業分）				☐ 当初要求	☐ 当初予算案	☐ 補正予算案	■点検
事業名	未来を切り拓く学力の育成事業費	部局	教育委員会事務局	課・室	学びの改革支援課				
		実施期間	H30 ～	E-mail	kyogaku @ pref.nagano.lg.jp				

1 現状と課題

- ・多様な特性等により学びづらさを抱える児童生徒が増えており、多様な学びや学びの場の保障が必要。
- ・探究的な学びの一層の充実が求められる中、探究学習の様相は多様であるため、具体的な実践方法に戸惑いがみられる。
- ・変化の激しい時代において、学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、主体性を発揮しながら、個別最適な学び、協働的な学びにより、教職生涯を通じて学び続けるといった、新たな教師の学びを実現していく必要がある。

2 事業目的

- ・一人の子どもも取り残されない「多様性を包み込む」学びの環境をつくる。
- ・探究を中核とした学びを充実し、一人ひとりが自ら考え、他者と協働する学校づくりを支援する。
- ・教職生涯を通じて学び続ける新たな教師の学びを実現する。

3 事業目的を達成するための取組

- ①学びの改革、個別最適な学びの推進

 - ・探究を中核とした学びの充実、個別最適な学びの推進、多様な学びの場の創造を図るため、実践研究に取り組む学校に対するアドバイザー派遣や先進的な取組を行う県内外の学校への視察研修等を実施するとともに、成果を発信していくためのフォーラムを開催。
 - ・一人ひとりに合った学びを実践する学校の設置に向けた検討会を開催。
- ②教職員の資質向上

 - ・初任者から管理職まで必要な資質能力を育成するため、キャリアステージに応じた教職員研修を実施
 - ・未来の学校を創る校長等のマネジメント力を向上するための研修を実施
 - ・長野県の次代の教育を担う教員が資質・能力を高めるため、先進的な取組を行う学校への視察研修の支援や私学・民間等と連携した研修プログラムの開発を実施
- ③子ども達の心身の健やかな成長

 - ・校園種を越えて学び合い質の高い幼児教育の実現を推進するため、信州幼児教育支援センターによるフィールド研修を実施
 - ・保育者に必要な資質能力を育成するため、キャリアステージに応じた研修を計画実施
 - ・園・小接続カリキュラム（理論編・実践編）に基づいた研修の実施
 - ・道徳教育の一層の充実を図るため、有識者等による道徳教育推進委員会を設置し、豊かな心を育むフォーラム等の実施
 - ・地域文化クラブ活動体制を整備し、学校外で文化芸術に触れる機会を確保
- ④主体的、共同的な学びの実現

 - ・教員の効果的なICT活用を促進するため、ICT教育推進センターにおいて活用力向上研修を実施
 - ・CBTによる学習状況の把握・即時フィードバックシステムを活用し、児童生徒の自律的な学びを展開（CBT:Computer Based Testing コンピュータを使って問題に取り組むこと）
 - ・教科学習を充実させるため、AI、ICT、Edtech教材等の先進的な教育ソフトウェア・教材の活用を支援
 - ・1人1台端末の発展的な活用を拡げるため、先進校（DXリーディング校）の授業公開等を実施

4 成果指標

（推移の凡例 ♯：改善 ♭：悪化 →：変化なし ―：数値なし）

No.	指標名	単位	R4年度	R5年度		R6年度		R6年度 目標値	達成 状況	目標値設定理由
			実績	実績	推移	実績	推移			
①	学びの改革を普及するための フォーラム参加者数	人	－	1,379	↗	1,527	↗	1,200	達成	先進的な学びの改革に取り組む小中学校の成果を横展開するため、フォーラム参加者数を目標値として設定
②	研修参加者の研修講座のふりか えり「講座のねらいを達成」	%	54	53	↘	50	↘	60	未達成	研修に参加した教職員の自己評価（「講座のねらいを達成した」とする者）が一定水準を上回るよう6割を目標として設定
③	信州幼児教育支援センターによ る各研修への参加者数	人	2,446	2,027	↘	2,013	↘	2,000	達成	令和4年度に拡充した研修を継続し、引き続き同規模の参加者を目標として設定
④	クラウドによる意見交換ができる 学校の割合	%	76.5	77.0	↗	79.0	↗	80	未達成	「クラウドによる意見交換ができる学校の割合」を高めるため、令和9年度の目標を90%とし、令和6年度は80%を目標として設定

5 本事業が貢献する総合5か年計画の施策分野と達成目標

No.	施策分野（施策の総合的展開名）	達成目標 （☆印が付いているものは主要目標）	単位	直近3か年の状況						目標	
				年／ 年度	数値	年／ 年度	数値	年／ 年度	数値	年／ 年度	数値
5-1①	一人ひとりが自分にとっての幸せを実現できる学びの推進	幼保小合同研修会の実施率	%	2022 (R4)	46.6	2023 (R5)	45.3	2024 (R6)	47.0	2027 (R9)	56.6
5-1②	一人ひとりが自分にとっての幸せを実現できる学びの推進	「学校へ行くのが楽しい」と答える児童生徒(小6、中3)の割合	%	2022 (R4)	82.0	2023 (R5)	82.4	2024 (R6)	84.5	2027 (R9)	83.7
5-2①	一人の子どもも取り残されない「多様性を包み込む」学びの環境の創出	「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」と答える児童生徒(小6、中3)の割合	%	2022 (R4)	78.1	2023 (R5)	77.4	2024 (R6)	79.0	2027 (R9)	76.5
5-2②	一人の子どもも取り残されない「多様性を包み込む」学びの環境の創出	☆「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間になっていた」と答える児童生徒(小6、中3)の割合	%	2022 (R4)	81.1	2023 (R5)	84.2	2024 (R6)	81.9	2027 (R9)	81.1

6 事業コスト

（単位：千円、人）

区分	予算額					決算額	職員数
	前年度繰越	当初予算	補正予算等	合計			
				(予算現額)	うち一般財源		
R6年度	0	149,111	659	149,770	109,484	109,232	8.0
R5年度	0	144,479	1,596	146,075	106,411	96,657	8.0
R4年度	0	115,009	0	115,009	98,838	55,921	8.0

事業番号	15 06 02	事業改善シート（令和6年度実施事業分）	□当初要求 □当初予算案 □補正予算案 ■点検
事業名	未来を切り拓く学力の育成事業費	部局	教育委員会事務局 課・室
			学びの改革支援課

7 主な取組実績と成果

①学びの改革、個別最適な学びの推進

・学びの改革パイオニア校構築支援事業により、これからの時代に必要とされる先進的・先端的な学びへの改革に取り組む実践校を「学びの改革パイオニア校」に指定し、長野県教育をけん引する新たな学びの仕組みの構築を支援することによって、探究を中核とした学びの充実、教育課題の解決、多様な学びの場の創造を図り、成果の普及に努めた。

教育委員会は学びの改革パイオニア校への支援として、改革アドバイザーの派遣や県外視察への支援を行った。学びの改革パイオニア校は、自校の取組を近隣の学校に広げるべく、各地区の教育事務所が主催する情報交換会で、取組について発信した。

1月の学びの改革フォーラムながのでは、全ての学びの改革パイオニア校（16地域）及び2年目を迎えた個別最適な学び研究事業推進校（4校）が、全県に向けその成果を発表した。

学びの改革フォーラム・ミニフォーラムを計5回開催し、有識者による講演や学校の取組発表を行った。学びの改革ミニフォーラムは、年間4回オンラインで実施した。各回の講師と参加者は以下のとおり。

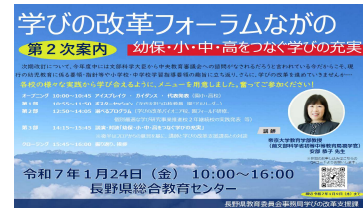
第1回 4月25日 前長野県教育委員会教育長 内堀繁利氏（273名参加）

第2回 6月10日 東京学芸大学 佐野亮子氏（425名参加）

第3回 9月12日 東京学芸大学教授 高橋 純氏（215名参加）

第4回10月29日 信州大学教授 本田秀夫氏（371名参加）

フォーラムながの（参集） 1月24日 帝京大学教育学部教授（前文部科学省初中等教育局視学官）安部恭子氏（243名）



学びの改革ミニフォーラムは県内の園小中高等学校の教職員に非常に好評で、研修会の記録動画を校内研修に利用したいと視聴希望を申し込む学校は、のべ313校あった。

また、事後アンケートでは、自校の学びの改革に生かすことのできる研修となったかの問いに対し、どの回も肯定的な回答は9割を超えた。

・1つの学校で、すべての子どもが、それぞれに合った学びを自ら選択できる実践校の設置（指定）を目指し、実践校の学校像や要件等について検討を行うため「一人ひとりに合った学び実践校（仮称）」検討会議を3回開催した。

第1回 6月18日、第2回 9月4日、第3回 9月26日

構成員 長野県PTA連合会 熊谷 弘氏、加賀市教育委員会教育長 島谷千春氏、信州大学教育学部准教授 下山真衣氏、信州大学教育学部教授 茅野 公穂氏、長野大学社会福祉学部教授 早坂 淳氏

本検討会議を経て、実践校の正式名称を「ウェルビーイング実践校TOCO-TON(トコトン)」(以下、「トコトン」という。)とし、主に以下3つのことに取り組むこととし、10月3日に県内の公立小中学校等を対象に、実践校の募集を開始した。

●「学校の仕組み変革」に取り組む。

●学校の準備から運営段階に至るまで、子ども、保護者、地域との意見交換等を通して、一緒に学校づくりに取り組む。

●取組の経過をオープンにするとともに、学校公開を行う。

12月5日に、12市町村市町村教育委員会70校の実践校をトコトンに指定した。

②教職員の資質向上

・初任者から管理職まで必要な資質能力を育成するため、キャリアステージに応じた研修を実施した。総合教育センターにおいて、348の講座を開設し、延べ18,000人の受講があった。希望研修講座の充足率は75.5%であった。受講者アンケートでは、「研修で得られたものを自身の教育実践で生かしたい」と回答した割合が78%であった。

③子ども達の心身の健やかな成長

・園種・校種を越えて保育現場から学び合うフィールド研修を12回開催し、延べ126人が参加した。

R6年度は、保育者がより参加しやすく効果的に研修できるようにするためのオンライン研修（実践内容発表と演習）と、実際の子どもの姿や環境の構成を見ることでより自己課題に重ねて学びやすくするための実地研修（実践園校での保育・授業参観研修）を組み合わせた研修とした。また、往還型・探究型の形式とし、参加者が自分自身の課題をもち、その解決に向けて実践を重ねたり、討議し合ったりするようにした。提出物等の課題が増えたため研修の難易度は上がり、その分参加者数は前年度から減ったが、参加者にとってはより深まりのある研修とされた。

・保育者のキャリアステージに応じた研修を5回開催し、延べ705人が参加した。

第1回 基礎形成期相当

「子どもとの主体性を尊重すること」 講師 長野県立大学准教授 渡邊 望

第2回 伸長期相当

「保育の質を支える保育者の専門性～職員の特性を活かしチームで実現する保育実践」
講師 洗足こども短期大学教授 井上 眞理子

第3回 充実期相当

「よりよい実践に向けて～充実期だからこそできること～」 講師 聖徳大学教授 河合 優子

第4回 次世代育成期相当

「保育者の専門性を高め合う園内研修」 講師 東海大学講師 天野 美和子

第5回 管理職期相当

「不適切な保育をゼロにする～子どもの育ちを支え、園のリスクマネジメントのために～」 講師 東洋大学教授 高山 静子

保育者の要望に応じた研修とすることで、日ごろ感じている課題意識を解決することに加え、幼児教育の質の向上につながる新たな知見を得る機会となった。



・園・小合同の研修会を2回開催し、延べ385人が参加した。
 第1回「事例に学ぶ 園・小の架け橋プログラム実践とカリキュラム」
 講師 学習院大学教授 秋田 喜代美
 第2回「園・小接続カリキュラムの開発に学ぶ」
 講師 長野県立大学教授 太田 光洋
 園と小学校が「発達と学び」を視点に職員同士がつながることの重要性を確認した。
 そのためどのような機会をつくることができるか考えることで、具体的な見通しをもつことができた。

連携から接続へ

園小接続研修 保育士等キャリアアップ研修 #2 として受講可

I

5月29日（水）14:00～16:00
「事例に学ぶ
園・小の架け橋プログラム実践とカリキュラム」
学習院大学 秋田 喜代美 先生
（園・小の架け橋プログラムの実践・カリキュラム開発）



II

7月31日（水）14:00～16:00
「園・小接続カリキュラムの開発に学ぶ」
長野県立大学 太田 光洋 先生
（園・小の架け橋プログラムの実践・カリキュラム開発）



・教員研修他や県民を対象とする教育フォーラム「豊かな心を育むフォーラム2024」を参集（総合教育センター）及びオンラインによる実施で開催し、112名が参加した。第1部は講演会、第2部はパネルディスカッションを行った。講演会では、なおやマン氏（こどもヘンテコまほうラボ所長、佐久大学非常勤講師）に「こどもたちが活き活きと自分の力を発揮できる環境のつくり方」と題し、ご講演いただいた。パネルディスカッションでは、なおやマン氏に長野県道徳教育推進委員の3名を加え、中島副委員長をコーディネーターに「こども時代を存分にこどもらしく過ごすための家庭・学校・地域の在り方」について議論した。

・参加者からは「なおやマンさんが言われた、『一番おいしいところを食べちゃわない』という言葉が心に響きました。日々の学校生活、授業において、教師が大事なところをもっていくのではなく、子どもを真ん中においた教育活動を日々展開していきたいと思いました」「子どもを信じるということを最近忘れていたように思います。信じる、待つ、見守る…口を出してしまいがちな自分を反省しました。子どもの世界と一緒に浸りこむ、一緒に考える、むしろ教えてもらう、そんな感覚を大事にしないといけないと思いました」などの感想が寄せられた。

④主体的、共同的な学びの実現

全市町村が参加する長野県GIGAスクール会議を通じて、有識者の助言のもと、端末やクラウドの活用を推進した。継続的な研修の実施に加え、先進校で授業公開を行い、教員の実態に応じた支援を進めた。

8 成果指標の達成状況に関する要因分析

指標①	学びの改革を普及するためのフォーラム参加者数	R5年度推移	↗	R6年度推移	↗	達成状況	達成
令和5年度から令和6年度まで「学びの改革パイオニア校構築支援事業」、「個別最適な学び研究事業」が着実に実施されたことで、学びの改革に取り組む小・中学校が増加している。また、今日的な教育課題に対応した講師の招聘が、参加者数の増加につながっていると考えられる。							
指標②	研修参加者の研修講座のふりかえり「講座のねらいを達成」	R5年度推移	↘	R6年度推移	↘	達成状況	未達成
9278件の回答があり、「自身の目標を達成」が50%、「自身の目標を概ね達成」が48%であった。講座振り返りの視点を「自身の目標」と変更したことから、自己評価として厳しい判断をしていることもあるが、研修を実践につなげるにはハードルが高いとの意見もあり、参加者のニーズとのずれが要因となったと考えられる。							
指標③	信州幼児教育支援センターによる各研修への参加者数	R5年度推移	↘	R6年度推移	↘	達成状況	達成
特に、保育所やこども園の先生方は園外の研修に出にくい状況があるため、当センターの研修の多くをオンライン開催で実施していることが、先生方の研修への参加のしやすさにつながっていると考えられる。また、キャリアステージに合わせた研修や、園小接続研修、ドキュメンテーション研修等、参加者が自己課題と重ねながら学べる内容になっていることも影響していると思われる。							
指標④	クラウドによる意見交換ができる学校の割合	R5年度推移	↗	R6年度推移	↗	達成状況	未達成
1人1台端末等の必要なICT環境整備を進めており、また、学校におけるICT機器を活用する授業が増加傾向にあるため、前年度に比べ実績が増加しているものの、ICT環境の整備と並行して授業改善を進めていくには時間を要するため、目標達成には至らなかった。授業改善を進めるため、市町村や学校のニーズにあわせた研修等をさらに充実させていく。							

9 今後の事業の方向性

(1) 上記7、8及び県民の意見等を踏まえた課題

- ・「学びの改革パイオニア校構築支援事業」「個別最適な学び研究事業」により、学校のシステム改革や授業改革を目指す学校の拡大を図り、小・中学校の改革を支援することができた一方で、システム改革に取り組むには時間を要するといった課題もみられた。
- ・研修を実践につなげる上でのハードルの高さや参加者のニーズとのずれを認識。
- ・幼児教育支援センター R 6 事業において、目標値を達成できた。保育時間の延長により、保育士が研修に参加しづらい状況があるので、オンライン開催と現地参集による開催のそれぞれのよさを生かしながら、参加者のニーズに合わせた研修のあり方を模索し、事業を継続していく必要がある。各地域における園小接続の取組が十分に進んでいないところもあるので、「接続」の視点から学び合う研修を実施していく必要がある。
- ・トコトンに指定した12市町村教育委員会70校は、R 7 年度は本格運用開始（R 8 年度～）に向けた準備を実施するため、県は市町村教育委員会や指定校を支援していく必要がある。
- ・ICT環境の整備と並行してクラウドなどを活用した授業づくり等の支援を行い、学校での授業改善につなげていくことが必要である。

(2) 事業改善の方策

- ・学びの改革パイオニア校は、複数年（2年間）一つのテーマに取り組めるように学校を指定しているため、アドバイザーの派遣や視察費用の補助などを各校が見通しをもって行うことができた。一方で、学びの改革パイオニア校等の成果を、さらに横展開するための具体策を一層充実させることで、学校や地域ごとの課題に応じた学びの改革につなげていく。
- ・研修講座の振り返りを基に、講座内容の改善を行う。全国教員研修プラットフォームPlantの本格導入により、研修の機会の拡充を図る。
- ・幼児教育支援センターにおいて、R 6 年度に実施したキャリアに応じた研修や園・小合同研修等を継続していく。また、各園の研修計画の作成時に信州幼児教育支援センターの研修を選択できるように、フィールド研修の募集開始を年度当初とする。加えて、参加者のニーズに合わせ、フィールド研修全8回の研修のうち6回は子どもの姿から直接学び合える参集研修の機会とする。
- ・トコトンをはじめ、学校改革を目指す県内すべての公立学校に伴走し、その実現をサポートする「学校改革支援センター」をR 7 年度から設置する。
- ・市町村教育委員会や学校を対象に、クラウド活用出前講座を実施し、1人1台端末やクラウドを活用した授業づくりについてニーズに合わせた支援を行っていく。

事業番号	15 06 02	細事業一覧（令和6年度実施事業分）			☐ 当初要求 ☐ 当初予算案 ☐ 補正予算案 ☒ 点検			
事業名	未来を切り拓く学力の育成事業費				部局	教育委員会事務局	課・室	学びの改革支援課

細事業 No.	細事業名		R4年度 決算額	R5年度 決算額	R6年度 決算額
1	学びの改革パイオニア校構築支援事業費		— 千円	1,345 千円	2,455 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和6年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	学びの改革パイオニア校普及促進事業	直接	先進的な学びの改革に取り組む小中学校の研究成果等を発信するフォーラムを開催する。		
			ミニフォーラム4回、フォーラムながの1回実施		
2	学びの改革パイオニア校構築支援事業	直接	探究的な学びや不登校等の多様な児童生徒の学びの保障について実践研究を行う学校に対し、アドバイザー派遣や先進校視察の支援を実施する。		
			小中学校8校において研究（探究4校、多様な学びの保障4校）		
3	個別最適な学び研究事業	直接	児童生徒自らが学習を調整、最適化する学びを実現するため、一人ひとりに合った教材を使用した最先端の自由進度学習等を研究する。		
			小中学校8校において研究		
4	一人ひとりに合った学び実践校設置検討事業	直接	個別最適な学び研究事業等の各研究事業の効果検証を行いながら、すべての子どもが「好き」「楽しい」、「なぜ」ととことん追求できる一人ひとりに合った学びの選択肢が用意されている学校の設置に向けた検討を行う。		
			検討会を3回実施		

細事業 No.	細事業名			R4年度 決算額	R5年度 決算額	R6年度 決算額
2	認知や発達の特性に応じた学びの充実実証研究事業費			— 千円	3,509 千円	3,438 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和 6 年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）			
1	認知や発達の特性に応じた学びの充実実証研究事業	直接	認知や発達に特性があり、学びづらさを抱える児童生徒の学びを充実するため、特性に応じた教育方法の在り方や個々の特性を把握するアセスメントの活用による学びの実証研究を実施する。			
		委託	小中学校 5 校において研究			

細事業 No.	細事業名		R4年度 決算額	R5年度 決算額	R6年度 決算額
3	教職員研修事業費		21,739 千円	39,319 千円	51,516 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和6年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	教職員研修事業費	直接	・教職員の資質能力を向上させるため、初任者研修等の法定研修やキャリアに応じた各種研修を実施する。 ・システムを活用して各研修の受講履歴を記録する。		
			初任者、5年目、10年目、20年目以上の者への資質向上研修を実施		
2	未来の学校を創る校長等マネジメント力向上事業	直接	各学校が独自のカリキュラムを実践するためのマネジメント力を向上し、主体的に特色ある運営を行えるようにするため、校長等のマネジメント力向上研修を実施する。		
			校長18名、小中中核教員27名に対し研修を実施		
3	特色ある私学・民間等と連携した「探究」研修プログラム開発運用事業	直接 負担金	探究を中核とした学びの改革を推進するため、学びの改革を担う教員研修の充実や、私立学校・民間企業等と連携した教員養成研修プログラム開発を実施する。		
			検討会2回、私学と連携した研修プログラムを開発		

細事業 No.	細事業名		R4年度 決算額	R5年度 決算額	R6年度 決算額
4	総合教育センター研修費		15,233 千円	15,079 千円	15,820 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和 6 年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	総合教育センター研修費	直接	『個人と社会のウェルビーイングの実現』に向けて、教員の資質能力向上を図る研修、専門的な知識・技能を習得する研修及び、教育課題を解決する力を育成する研修を行う。 希望研修、校長・教頭向け研修を実施		

細事業 No.	細事業名		R4年度 決算額	R5年度 決算額	R6年度 決算額
5	総合教育センター研究費		1,251 千円	912 千円	603 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和 6 年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	総合教育センター研究費	直接	本県教育の今日的課題やセンターの事業に関する喫緊の課題に対応するため、研究協力者及び研究協力校とともに、時代を先取りした研究調査を推進する。 調査研究事業 5 件を実施		

細事業 No.	細事業名		R4年度 決算額	R5年度 決算額	R6年度 決算額
6	幼児教育振興事業費		5,335 千円	5,601 千円	5,979 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和 6 年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	信州幼児教育支援センターの運営	直接	幼稚園及び保育所等の園種を越えて幼児教育の質の向上を図るため、関係団体との連携、保育者研修の見直し等を実施する。 運営会議 2 回、専門部会 6 回実施		
2	保育者の資質能力の向上	直接 委託	質の高い幼児教育を実施するため、キャリアステージに応じた研修を実施。また、先進的な取組を行っている幼稚園、保育所及び認定こども園等でフィールド研修を委託する。（委託先：県内の幼児教育施設等） キャリアステージ研修 5 回、フィールド研修委託 5 件実施		
3	保育者の資質能力の向上	直接	園・小接続カリキュラム（理論編・実践編）に基づいた研修を実施する。 研修 2 回を実施		
4	保護者・地域等の理解の促進（情報発信）	直接	保護者及び地域等へ理解を促進するため、情報誌による情報発信をする。 情報誌への掲載 3 回実施		

細事業 No.	細事業名		R4年度 決算額	R5年度 決算額	R6年度 決算額
7	道徳教育総合支援事業費		1,761 千円	2,975 千円	3,521 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和 6 年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	道徳教育総合支援事業	直接	道徳教育の質的転換を一層図るため、学習指導要領を踏まえた多様な指導方法の開発や指導力向上のための教員研修等を推進する。 教育フォーラム 1 回、研究協議会 2 回実施		

細事業 No.	細事業名		R4年度 決算額	R5年度 決算額	R6年度 決算額
8	文化庁活動改革事業費		— 千円	3,085 千円	13,945 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和6年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	地域文化クラブ活動体制整備事業	直接 委託	地域全体で中学生の多様な文化活動の機会を確保するため、運営組織や団体等の持続可能な運営に向けた体制整備や指導者の確保等を支援する。 （委託先：市町村） 体制整備等の実証事業を実施（広報）		
2	地域文化クラブ活動体制整備補助金	補助金	地域全体で中学生の多様な文化活動の機会を確保するため、運営組織や団体等の持続可能な運営に向けた体制整備を検討する市町村を支援する。 実績なし		
3	部活動指導員任用事業補助金	補助金	中学校文化庁活動の専門的な指導による適正な運営と教員負担軽減のため、部活動指導員を任用する市町村を支援する。 20市町村（学校組合）に対し補助		

細事業 No.	細事業名		R4年度 決算額	R5年度 決算額	R6年度 決算額
9	ICT教育推進センター事業		8,942 千円	24,832 千円	11,955 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和6年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	ICT教育推進センター事業	直接	ICTを活用した個別最適な学びや協働的な学びを推進するため、「長野県ICT教育推進センター」において、公立学校におけるICT機器を活用した効果的な授業支援や教員のICT活用力向上研修の充実を図る。 長野県ICT学び推進協議会3回		
2	CBTによる学びの改革事業	直接	CBTによる学習状況の即時フィードバックにより、自らの学習を調整し、自律的に学ぶ児童を育成する。 県内の小学校5年生を対象に実施		
3	GIGAスクール構想をけん引するDXリーディング校事業	直接	1人1台端末の効果的な実践例を横展開していくため、他校とのオンラインによる協働学習など、授業連携を積極的に行う学校をリーディング校に指定するとともに、公開授業やSNSの活用により成果を発信する。 県内小中学校4校をリーディング校に指定		
4	メタバースにおけるバーチャルな教育空間の活用検討事業	直接	有識者等による検討会を開催し、メタバース（仮想空間）の教育的利用について、その利点や課題について検討する。 検討会を3回実施		